

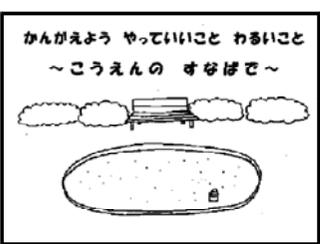
かんがえよう やっていいこと わるいこと

こごうえんの すなばで (幼児・小学生低学年用)

作：神奈川県警察本部少年育成課 小島久美子

絵：神奈川県警察本部少年育成課 平野洋子

【表紙】



演出ノート

○子ども達に語りかける。

今日は、「やって良いこと、悪いこと。」について、皆さんと一緒に、お勉強していきますましよう。

それでは、紙芝居のお話を聞いて下さい。

途中で、私が、皆さんに、

これは、やって良いことでしょうか。

それとも、やってはいけないことでしょうか。

とか、

こういうときは、どうしたら良いでしょうか。

などと質問します。

皆さんは、お話を聞きながらよく考え、私が質問したら、手をあげて答えて下さいね。

それでは、

「かんがえよう やっていいこと わるいこと こごうえんの すなばでの始まり始まり。」

【場面 ①】

マル太君とホシ子ちゃんが、家の近くにある公園の砂場で、山を作り、その下にトンネルを掘っています。

ホシ子ちゃんが言いました。

ホシ子 「マル太君、すごい。もうすぐ、トンネル、出来上がるね。」

マル太君が、うれしそうに言いました。

マル太 「砂に水をかけて、山を固く作ることが大事なんだ。

そうして、シャベルで少しずつ、トンネルを掘っていくんだ。

山が硬いと、なかなか、崩れないんだよ。」

ホシ子 「マル太君って、何でも知っているし、何でもできるのね。」

二人は、楽しそうに、遊んでいます。



・ナレーションはゆっくり

・元気に明るく

・自慢げに

・憧れるように

【場面②】

サンカク君も、公園に遊びに来ました。

そして、トンネルを掘っているマル太君とホシ子ちゃんの近くに行き、シーと見えています。

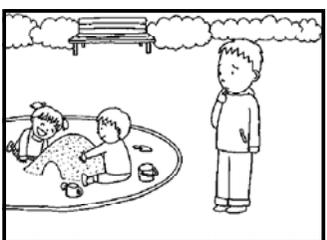
サンカク君は、

サンカク『良いなあ。僕も、トンネル、作ってみたいなあ。』
と思いました。

でも、今は、おじいちゃんの家遊びに来ているので、シャベルも水を運ぶためのバケツもありません。

サンカク君は、シャベルやバケツを使いたいと思いました。

でも、マル太君とも、ホシ子ちゃんとも、今まで、一緒に遊んだことも、話されたこともありません。



・羨ましそうに

突然、サンカク君は、マル太君のバケツを持って、水を汲みに行きました。

○ それでは、皆さんに質問します。

サンカク君は、黙ってバケツを使っています。

黙ってバケツを使うことは、やっても良いことでしょうか。それとも、いけないことでしょうか。

良いことが、いけないことが、どちらかに手をあげて、答えて下さい。

・ 黙って使っても良いと思う人。

・ 黙って使ってはいけないと思う人。

○ ありがとうございます。

人の物を黙って使うことは、いけないことですね。

○ では、お友達のを借りたときは、どうしたらいいでしょう。

・ マル太君のことは知らないけど、「貸して。」と頼む。

・ 「仲間に入れて。」と頼んで、一緒に遊ぶ。

どちらかに手をあげて下さい。両方、手をあげても良いです。

・ 『貸して。』と言って、頼む。』という人。

・ 『仲間に入れて。』と頼んで、一緒に遊ぶ。』という人。

○ ありがとうございます。どちらも、良いやり方ですね。

「貸して。」と頼んだときは、「良いよ。」って言われてから使いましょうね。

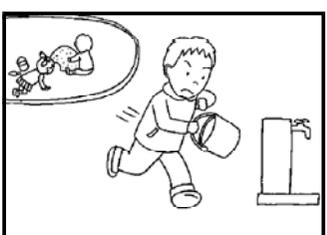
勇気を出して「仲間に入れて。」と頼むことも、偉いことです。

それから、「貸して。」とか「仲間に入れて。」と頼まれたときは、「いいよ。」と

言って、そこで一緒に遊べると、お友達も増えるし、とても良いことですね。

あれっ。

サンカク君は、黙ってバケツを持って行きましたが、マル太君もホシ子ちゃんも、トンネルを掘ることに夢中で、バケツを使われていることに気がついていません。



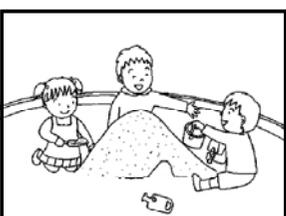
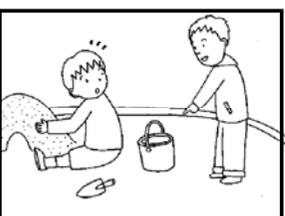
○ 子ども達に語りかける。

○ 絵を示す。



○ 「×」画面を示す。

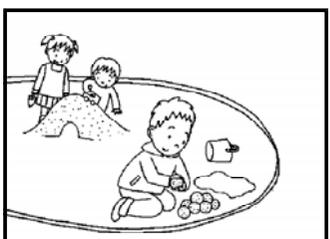
○ 絵を示す。



【場面④】

サンカク君は、汲んできた水を二人から一番離れた砂場に、シャーとかけました。砂はべたべたになり、おだんごが上手に作れます。サンカク君は、沢山のおだんごを作り、積み上げていきます。

お山のようになってきました。



そのとき、マル太君が、自分のバケツがサンカク君の側に置いてあることに気がき、不思議そうな顔をして、バケツを持ちました。そして、サンカク君を見て、

マル太 「これ、使った。」

と聞きました。

サンカク君は、ちょっと、悲しそうな顔をしながら首を振り、

サンカク 「使っていない。」

と、答えました。

○ では、ここで、皆さんに、質問します。

マル太君が、サンカク君にバケツを「使った。」と聞いたとき、サンカク君は「使っていない。」と答えました。

サンカク君は、本当に、バケツを使っていないでしょうか。それとも、使ったでしょうか。

・ 「バケツを使った。」と思う人。

・ 「バケツを使ってない。」と思う人。

○ 皆さん、よくお話を聞いてますね。「使っていない。」と答えたのは、嘘です。」

嘘をつくことは、いけないこと、悪いことです。

黙って借りて悪かったときは、嘘をついてごまかすのではなく、正直に話をして、「ごめんなさい。」と謝りましょう。

○ サンカク君は、直ぐに、謝ることができたでしょうか。

お話の続きを見ていきましょう。



・ 尋ねるように

・ 暗い感じで

○ 子ども達に語りかける。

○ 挙手を求める。

○ 挙手を求める。

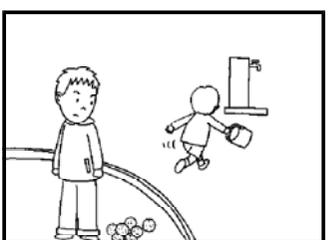
【場面⑥】

マル太君は、

マル太 『バケツ、風でとんでいったのかなあ。』

と思いながら、水を汲みに行きました。

サンカク君は、マル太君が水道のほうに歩き始めるころ、直ぐに立ち上がりました。



そして、今度は、マル太君が使っていたシャベルを持ちました。
そのときです。ホシ子ちゃんが、

ホシ子 「それ、マル太君のだよ。とったらダメだよ。」

と大きな声で言い、サンカク君をにらみました。

サンカク君は、ホシ子ちゃんの声に驚きました。

マル太君が、ホシ子ちゃんの大きな声に気付いて、こちうに走ってきます。



・怒ったように

マル太 「あつ、それ、僕のシャベルだ。勝手に使うなよ。」

と言いつ、シャベルを取り上げました。そして、

マル太 「バケツも勝手に使ったな。嘘つき。」

と言いつながら、サンカク君の胸を思いっきり押したのです。

サンカク君は、転んでしまいました。

○ マル太君は、サンカク君が、黙ってバケツを使い、今、また、シャベルまで使おうとしたから、怒って押したんですね。

それでは、皆さんに、質問します。こういうとき、マル太君は、サンカク君を押ししても良いでしょうか。それとも、押しはいけなでしょうか。

どちらかに手をあげて下さい。

・ 「押ししても良い。」と思う人。

・ 「押ししてはいけない。」と思う人。

○ 答えは、押すことは、いけないことです。人をぶつたり、蹴つたり、押ししたりすることは、とても悪いことです。たとえ、お友達が悪くても、ぶつたり、押ししたりすれば、自分も悪いことをしたことになります。

○ では、こういうときは、どうしたら良いでしょうか。

・ 「勝手に使うのは、やめて。」と言う。

・ 「一緒に遊ぼう。」と誘う。

どちらかに手をあげて下さい。

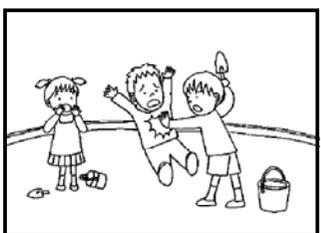
・ 『勝手に使うのは、やめて。』と言う。「』という人。

・ 『一緒に遊ぼう。』と誘う。「』という人。

○ ありがとうございます。どちらも、良いやり方ですね。お友達が悪いときでも、話をして、やめてもらったり、仲良くするやり方を考えましょう。

どんなときでも、ぶつたり、蹴つたり、押ししたりすることは、悪いことです。そういうことはしないと、約束してくれる人。

○ ありがとうございます。では、お話の続きを見ていきましょう。



・ 怒ったように

・ 怒ったように

○ 子ども達に語りかける。

○ 挙手を求める。
○ 挙手を求める。

○ 「×」画面を示す。

○ 絵を示す。



サンカク君は、涙を流し、立ち上がろうとしません。
ホシ子ちゃんが、言いました。

ホシ子 「マル太君。押しだりしちゃダメだよ。泣いちゃったよ。」
でも、マル太君は、謝ろうとはしません。
そのとき、サンカク君が言いました。

サンカク 「僕は、とってない。
ちょっと、借りただけなのに、とったなんて、ひどいよ。」

○ 皆さん、サンカク君は、「とった」と、言われたことが悲しくて、泣いていたんですね。

では、もし、皆さんが「とった」とか「嘘つき」とか、「いじわる」とか言われたら、どのような気持ちになりますか。

悲しい気持ちや嫌な気持ちになりますか。それとも、うれしい気持ちや楽しい気持ちになりますか。では、どちらかに手をあげて下さい。

- ・ 「悲しい気持ちや嫌な気持ちになる。」という人。
- ・ 「うれしい気持ちや楽しい気持ちになる。」という人。

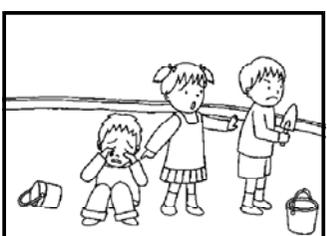
○ ありがとうございます。

「とった」とか「嘘つき」「いじわる」などと、ひどいことを言われたら、悲しい気持ちや嫌な気持ちになる人が多いですね。

自分が言われて嫌なことは、お友達に言うのはやめましょう。

そして、自分が嫌な思いをしたときでも、「お友達を悲しい気持ちにさせないかな。」「嫌な気持ちにさせないかな。」と考えてから、話をするようにしましょう。

○ では、「とった。」と言った、ホシ子ちゃんはどしたのでしょうか。
お話の続きを見ていきましょう。



・ 注意するように

・ 訴えるように

○ 子ども達に語りかける。

○ 挙手を求める。

○ 挙手を求める。

ホシ子ちゃんが、びっくりして言いました。

ホシ子 「えー。それで、泣いていたの。」

(間を置く)

とったなんて、ひびくと言って、しめね。

でもね、これからは、貸して欲しいときは『貸して。』って言わなきゃダメだよ。

そうしないと、とったのか、借りただけなのか分からないからね。

もう泣かないで。仲良くしよう。一緒に遊ぼう。」

ホシ子ちゃんは、サンカク君の横にしゃがみ、謝りました。

サンカク君は、言いました。

サンカク 「僕も、黙って借りて、悪かったんだ。」

『使っていない。』って嘘もついた。しめんなさい。

本当は、一緒に遊びたかったんだ。」



・驚いたように

・素直に

・優しく

・素直に

マル太君が言いました。

マル太 「なんだ。一緒に遊びたかったのか。」

それなら、最初から『仲間に入れて。』と言えば良かったんだよ。

押したりして、ごめんね。

もうすぐ、トンネルができあがるんだ。手伝って。」

サンカク 「うん。ありがとう。」

僕、サンカクっていうんだ。

今、おじいちゃんのうち遊びに来ているんだよ。」

サンカク君は、元気に言いました。

ホシ子 「そうだったの。私はホシ子。よろしくね。」

マル太 「僕は、マル太。これからは、仲良くしよう。」

そうだ。トンネルが出来上がったら、そっちも山を作って道を作ろう。」

サンカク 「うん。よし、がんばるぞー！」

三人とも、とてもうれしそうな顔をしています。

○ 皆さん、ここまで、

・ ホシ子ちゃんは、「とったなんて、ひどいこと言って、ごめんね。」と謝りました。

・ サンカク君も、「黙って借りた。嘘もついた。ごめんなさい。」と謝りました。

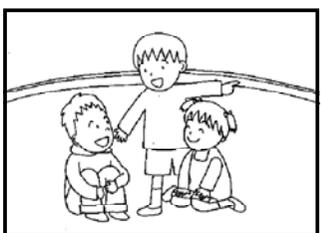
・ マル太君も、「押ししたりして、ごめんね。」と謝りました。

みんな、自分のやった悪いことを謝り合えたから、今、うれしそう顔を
して、一緒に遊ぼうとしているんですね。

間違えてしまったときは、直ぐに「ごめんなさい。」と謝ることは、とても大切なことです。

そうすれば、こんなに、仲良くできるんですね。

○ 三人は、この後、どうするのでしょうか。お話の続きを見ていきましょう。



・ 明るく

・ うれしそうに

・ 明るく

・ 明るく

・ 楽しそうに

○ 子ども達に語りかける。

このとき、サンカク君のおじいちゃんが、公園にやってきました。

サンカク「おじいちゃん。僕、友達ができたんだ。

これから、みんなで、トンネルや道を作るんだよ。」

サンカク君は、おじいちゃんに走りより、「ニコニコしながら、言いました。

祖父 「そうか、良かったな。みんな、ありがとう。」

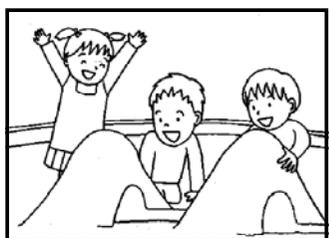
よし、おじいちゃんは、出来上がるのを楽しみ、「待ってらなう。」
と言い、ベンチに向かいました。



・うれしそうに

・穏やかに

このあと、マル太君、サンカク君、ホシ子ちゃんは、もう一つの山も作り、トンネルを掘り、道を作り、力を合わせて、素敵な、二つのトンネル付きの道路を完成させました。



【おしまい】

○ これで「かんがえよう やっていいこと わるいこと こうえんの すなはで」の紙芝居はおしまいです。

※ 子ども達の様子を見ながら、時間があるときは、ふりかえりをしましょう。



○ 子ども達に語りかける。

○ 皆さん、今日のお話で、

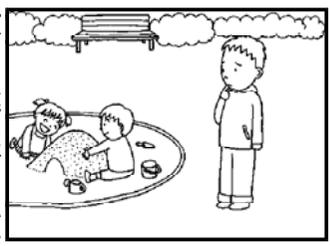
・ お友達の物をとったり、黙って使うことは、いけないこと。
ということを勉強しました。

では、お友達の物を貸して欲しいときは、何て言えばいいでしょう。
みんなで声を合わせて言ってみましょう。

そうですね。「貸して。」「と聞き」「良いよ。」「と言われてから借りましょう。

○ できる人。

ありがとうございます。



○ 子ども達に語りかける。

○ 声を合わせて

「貸して。」「

と知らせる。」

○ 絵を示す。



【ふりかえり ②】

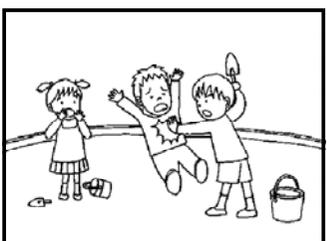
○ それから、どんなときでも

・ お友達をぶったり、蹴ったり、押したりすることは、いけないこと。
ということも勉強しました。

お友達に、嫌なことをされたときは、ぶったり、蹴ったりはしないで、「やめて。」
などと話をして、仲良くするやり方を考えましょう。

○ できる人。

ありがとうございます。



○ 子ども達に語りかける。

○ 「×」画面を示す。

○ 拳手を求める。

○ それから、自分が言われたら、悲しい気持ちや嫌な気持ちになることを、お友達に言っただけじゃありません。

では、皆さんに質問します。

間違えて、お友達を嫌な気持ちにさせてしまったときは、何て言えばいいでしょうか。では、みんなで声を合わせて言ってみましょう。

○ そうですね。間違えたときは、「ごめんね。」とか「ごめんなさい。」と謝れるようにしましょう。

○ それから、間違えてしまったとき、絶対にやってはいけないことは、嘘をつくことです。

「嘘はつかない。」と約束してくれる人。

○ ありがとうございます。大勢の手がかりました。



○ 子ども達に語りかける。

○ 声を合わせて

「ごめんね。」

と言わせる。

○ 「できる人。」

と挙手を求めても良い。

○ 挙手を求める。

【まとめ】

○ 今日、沢山の約束をしました。

- ・ ぶたない。
 - ・ とらない。
 - ・ 嘘をつかない。
 - ・ 間違えたときは、「ごめんなさい。」と、素直に謝る。
 - ・ その他、自分が言われて嫌なことは、お友達には言わない。
- というのもありましたね。

これは、小学生や中学生になっても大切なことです。

みんなが、楽しく、気持ちよく過ごせるよう、しっかり守っていきましょ。

○ それでは、これで「考えよう。やって良いこと 悪いこと」のお勉強をおしまいにします。

おしま



○ 子ども達に語りかける。